

## 南アルプス 三峰川岳沢アイスクライミング

小暮

【日時】 2009年12月29日(火)～2010年1月1日(金)

【メンバー】L小暮、藤岡

岳沢は、アルパインアイスのクラシックルートとしていつか行ってみたいとかねてから考えていたが、丁度この年末に藤岡さんに行く話がまとまった。事前に調べた記録などから、2泊3日で抜けている記録は半分程度であり、下山で時間切れになって4日掛かっているケースが多いことがわかった。我々も、軽量化して山行に望み天候とラッセルさえうまくいけば3日で抜けられると考えた。ルートとしては、一つ一つの氷瀑の難易度としては問題になるようなことは無い。軽量化は、防寒具、シュラフを小さいものとし、フライ無しのゴアテント、貧弱な食料とぎりぎりの燃料で対応したが、結果的には軽量化しすぎて余裕の幅の少ない計画となってしまったかもしれない。

岳沢は入山地と下山地が違うため、車を戸台河原に置いてタクシーで丸山谷に向かう。タクシーは塩沢出合のゲートまでで、ここから歩きとなる。前日の雪も林道周辺はたいしたこと無く順調に進む。丸山谷南沢への林道は地形図で示すより奥まで延びており、c.1350辺りまで続いていた。林道が無くなってからは、赤布に従って進み、1409からは事前に調べていた通り、沢の中ではなく滝場を巻くようにつけられた右岸の急斜面を登る。少々道が悪いが、周囲を探すと赤布が高台まで続いており、その先は足元に注意しながらトラバース道を辿ると営林署小屋跡に出た。

営林署小屋跡は、思ったよりも立派だが、中は鹿の糞だらけでとても中で休めるような状態ではない。ここからは沢に沿って藪をうまく分けながら進む。上っていると先方から、下山してくる二人パーティーと出会う。どうやら2-3日前に入山していたが、F5で雪崩に遭って引き返してきたという。今日の晴天で雪も落ち着いてきているので我々が取り付く頃には大丈夫かと思うが、あまり幸先の良い話ではない。

c.1800のあたりで氷瀑が現れる。藤岡さんは、右岸の赤布に従って巻くが、私は簡単そうな氷なのでフリーで越えると、その上にも5m程度の滝がある。こちらフリーで慎重に越え、滝上でしばらく待っていると、結構悪かったという巻き道から藤岡さんと合流する。沢は源頭となり、左岸側の赤布に沿って詰め上がり、岳沢越に出た。展望はあまり無く、樹林の隙間から仙丈ヶ岳を望むと氷瀑らしきものが見えた。



F1 は氷結が少し甘い

樹林帯をつづら折れに下り、三峰川本流は平坦で歩きやすく、容易に岳沢出合に着く。水流を左右に渡渉しつつ河原をしばらく進むと、釜を持った小滝にでた。巻くことも出来ないで、沢登りのようにこわごわとへつって越えるとF1に着く。藤岡さんリード。簡単な氷瀑だが、下に大きな釜があるのと、落ち口の氷結が悪く少々いやらしい。私が登っている時にアイゼンが外れて、釜に落ちそうになるアクシデントがありちょっとあせる。思ったより時間がかかってしまったが、予定通りF1の上まで抜けられた。吹き溜まりを整地して、F1の上に天幕を張る。

2日は登攀の一日である。出発してすぐに現われた小滝を簡単に越えると、左から沢を合わせて、F2 10mとなる。登っているときは、小滝をF2とカウントしていたため、これがF3かと思った。ここは容易にフリーで抜ける。F3は幅広で非常に立派で見たえがある。登っているときはF4だと思っていて、Webで事前に見た記



幅広のF3

録だとF4は厳しいとあったので、まさしくこれがF4と思った。後で読んだトポによれば、右から下部は巻いて上部のみ斜上して抜けるとある。滝のカウントの仕方は記録によってまちまちである。念のためトップは空荷で登って荷揚げする予定で中央部分から取り付く。25m登ったところで傾斜が緩むので、ここで荷揚げしようとロープをセットするが、重くて力尽きて挙げられない。仕方なく藤岡さんにも登ってもらい、二人で1/6システム+ガルダーヒッチでシステムを組みなおして荷揚げしたがかなり時間使ってしまった。荷揚げの練習不足。沢での荷揚げと違って、下が氷だからかえって荷物が滑り、加重がもろに上にかかるのでかえって大変だった。

続く F4 30mもなかなか立派。こちらもロープを出して登る。さっきは荷揚げで苦労したので、荷物を背負ってリードする。F5の小滝は間違えて右の沢から巻いてしまい、ラッセルで越える。F6は私がフリーで抜けて、念のため後続の藤岡さんを確保。F7は左から巻いた。この辺りは、ラッセルが深くて疲れるところだ。

クライマックスのF8ソーマン流しの滝110m。とルンゼの間を右、左、右と曲がるように立ってい



るので、下から全貌を一目で確認できないのが残念である。スケールは大きいが思っていたよりも簡単そうなのでほっとする。1ピッチ目は、傾斜が緩いのでフリーで登り、ザイルをたぐるついでに藤岡さんは確保する。2ピッチ目は、藤岡さんリード。この時点で後続4人パーティがやってきた。やや立った3ピッチ目は、小暮リードで滝上にて。取り付いたのは12時20分だったので、時間は余裕だと思っていたが3ピッチ登るうちにいい時間になってしまった。滝上に出る頃には、寒冷前線が通過したのか風が強まり、雪が飛ばされてきている。テントの張り場所に困るかと思ったが、滝上の岩陰が風避けとなって格好の場所となったのでここにテントを張る。



F8 ソーメン流しの滝 2ピッチ目

3日目は朝から地吹雪の様相。寒気が入って冬型が強いようなので稜線は大変と予測しつつ出発。

F9はフリーで越え、その先はひたすらラッセル。急な雪壁を抜け、左、左とルートを取り、時折出てくる氷はフリーで越えた。樹林帯を抜けると、大仙丈ヶ岳から西に延びる支尾根に出た。風が非常に強く、風を避ける場所が無い。少し登ると小ピークとなり大仙丈ヶ岳と勘違いしてしまった。

目も開けられないくらいの地吹雪の中、ゴーグルも1時間もしないうちに使い物にならなくなり、時折雪面も判別できないくらいのガス、両側に切れた稜線で滑落しないように慎重に進む。真剣に耐風姿勢をとってないと持っていられるくらいの風の合間を縫って、更に1時間かけて仙丈ヶ岳へ着いた。山頂は風をよける場所もないので、休憩せずにそのまま下山する。

後続パーティもやってきて前後して下山するが、トレースが無く、わかりづらい尾根で、右往左往したり、間違えて登り返したりもしてしまう。はっきりとした休憩せずに4時間近く行動していたためか藤岡さんが、遂にバテてしまい歩きが極端に遅くなってしまふ。別パーティのうち二人も大分ばてている様子で、我々と同じようなペースである。15:00過ぎまでかかって小仙丈ヶ岳につき、下降路を探すがよくわからずうろろしているうちに16時近くになってしまった。

当初の計画では、3日目にそのまま下山予定でもあり、下山できないまでも北沢峠か風の弱い樹林帯まで行きたかったがやむを得ず予備日を使ってここでビヴァークと決断。藤岡さんの調子も悪いので、その場から近くで風の避けられそうな雪の吹き溜まりを掘り下げてテントを張った。テントの中で体と荷物の雪払いで1時間くらいかかってしまふ。ガスも軽量化してぎりぎりしかなかったのも、水を作ってジフィーズを食べたら燃料を節約。濡れた手袋や服を乾かすことは出来なかった。その夜は更に風も強くなり、風の息が無く5分位強く吹き続けることもあり非常に寒い夜で、あまり眠れなかった。



4日目

一晩中震えて迎えた今朝も強風は納まっておらず、なかなか起き上がることができない。明るくなった7時に起きてのろのろ用意して10時頃に出発。天気は相変わらず風は強いが、視界は大分回復しており、ガスはでているがなんとかかなりそう。

下降路を探しての中降りる尾根を探してしばらくうろろしていたが、目星をつけた尾根から登山者が上がってくるのが見えて一安心。あとはトレースをたどって北沢峠経由戸台まで長い長い下山でした。

クライミング的には事前に入念に調べていたこともあり、稜線に出るまでのタイムはほぼ順調であったが、その後の天候の悪化を甘くみていた。予備日の範囲で下山したとはいえ、下山連絡先の石井さんや家族ほか会のメンバーには心配を掛けることになってしまったのは申し訳なかった。岳沢はやはりアルパインルートだけあって総合力が必要なルートであった。

### 【行程】

- 12/29 林道終点(塩沢出合ゲート)(8:10)～営林署小屋跡(10:25)～岳沢越(12:55)～岳沢出合(13:30)～F1下(15:20)～F1上 c.1(16:30)
- 12/30 c.1(6:30)～F3 下(7:30)～F3 上(9:30)～F4 上(11:10)～F8 ソーメン流しの滝(12:20)～F8 上 c.2(16:20)
- 12/31 c.2(6:40)～奥二又(7:30)～稜線(9:40)～大仙丈ヶ岳(11:10)～仙丈ヶ岳(12:40)～小仙丈ヶ岳下 c.3(16:00)
- 1/1 c.3(10:10)～北沢峠(12:20)～丹溪山荘(13:50)～戸台(16:20)

【地図】仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳

三峰川岳沢概念図

